96

外国人患者受入体制の充実

(病院経営本部経営企画部/病院会計)

事	業	開	始	平成	26	年度
事	業	終	期	平成	32	年度

【局評価】

1 どのような経緯で事業を始めたか、何を目指すのか

○ 東京2020大会を契機として、東京の国際競争力を 高めていくため、外国人が安心して医療を受けられ る環境の整備を目指す。

3 どのような課題や問題点があったか

- 外国語対応可能な職員の不在時の対応や文化・習慣 等の違いへの対応範囲についての検討が必要である。
- タブレット端末における「翻訳アプリ」については、場面や言語によって有用性が異なることが判明した。また、少数言語にも適切に対応するため、意思疎通を視覚等で補う手段の検討が必要である。
- タブレット端末における「問診システム」については、個人情報を入力することから、その保護等の課題がある。

【財務局評価】

5 財務局として、成果や課題などについて、どう考えたか

○ 外国人患者が安心して医療を受けられる環境整備のため、翻訳アプリなどの導入の必要性は認められるが、費用対効果の観点から、より有用な取組について引き続き検討していく必要がある。

根拠法令等

2 どのように取り組み、どのような成果があったか

- 本部職員、各病院職員にて構成する都立病院国際 化対応検討委員会を開催し、委員会の下で職員対応 力の向上及び外国人患者サービスの向上に取り組ん だ。
- 職員向け語学研修の実施(平成27年度までに約 340人受講)により、病院職員の英会話力を底上げ した。
- 職員向け異文化理解研修(27年度までに約120人 受講)の実施により、様々な文化・宗教をもつ外国 人患者に対応するための知識を習得した。
- 問診票等各種帳票、病院経営本部及び各都立病院 ホームページ、及び「都立病院のご紹介」パンフレットの多言語版作成により、外国人患者へ情報を提 供する環境を整備した。
- 言語サポートのためのタブレット端末の試行・検 証を行った。

4 局として、事業をどうしていきたいか

拡大・充実 見直し・再構築 移管・終了

○ 外国人受入体制に関する第三者機関の評価認証取得 準備等にて認識した課題に対応し、外国人が安心して 適切な医療を受けられる環境を実現する。

その他

○ 「問診システム」については、試行・検証を継続する。

- 「翻訳アプリ」については、一定の効果が確認できたため、利用を拡充するとともに、テレビ電話通訳を活用し、通訳体制の整備を図る。
- 検査説明動画等のコンテンツや医療専門用語に係る 理解を補完するため、タブレット端末を積極的に活用 していく。

歳入	27年度決算額	_	千円	#	27年度決算額	47, 031	千円
	28年度予算額	6, 492	千円	田	28年度予算額	110, 293	千円
	29年度見積額	1, 700	千円		29年度見積額	87, 107	千円

6 29年度予算で、どのように対応したか

拡大・充実 見直し・再構築 移管・終了 その他

- 「翻訳アプリ」、テレビ電話通訳やタブレット端末 の導入により、外国人患者受入体制整備の効率的な展 開が可能となる。
- 一部経費を精査の上、所要額を計上する。

歳入	29年度予算額	1, 700	千円
歳出	29年度予算額	82, 978	千円